

## 今、人間を見つめる。

選んできた。嫌ってきた。見捨ててきた。  
だからこそ、そんな〈自分〉を見つめてみる。  
人間、いのちを見つめる。

### 仏教と生命—いのちのゆくえ—

#### ■ パネリスト

養老 孟司 × 福岡 伸一 × 織田 顕祐

(解剖学者・東京大学名誉教授)

(生物学者・青山学院大学教授)

(大谷大学教授)

#### ■ コーディネーター

木越 康 (大谷大学准教授)

日 時：2011年2月6日(日)

13時開場・13時50分開演(終了予定16時)

会 場：六本木アカデミーヒルズ40 キャラントA+A'  
(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー40階)

入場無料(事前申込による聴講券が必要)

主 催：真宗大谷派(東本願寺) 後 援：大谷大学



### 仏教と生命—いのちのゆくえ—

#### PROFILE

##### パネリスト

#### 養老 孟司

解剖学者  
東京大学名誉教授



1937年、神奈川県生まれ。東京大学医学部卒業。1年のインターンを経て、解剖学教室に入る。以後、解剖学を専攻。医学博士。東京大学教授、東京大学総合研究資料館長、東京大学出版会理事長、北里大学教授を歴任。現在、東京大学名誉教授、京都国際マンガミュージアム館長、解剖学者。1989年に「からだの見方」(筑摩書房)でサントリー学芸賞を受賞。2003年に「バカの壁」(新潮社)で毎日出版文化賞を受賞。著書に、「死の壁」、「超バカの壁」、「養老訓」、「かけがえないもの」(新潮社)、「ヒトの見方」、「解剖学教室へようこそ」、「考えるヒト」(筑摩書房)、「養老孟司の〈逆さメガネ〉」、「本質を見抜く力」(PHP 研究所)、「耳で考える」(共著、角川書店)、「唯脳論」(青土社)、「臨床読書記」(文藝春秋社)、「脳に映る現代」(毎日新聞社)、「いちばん大事なこと—養老教授の環境論」(集英社)など多数。

#### 福岡 伸一

生物学者  
青山学院大学教授



1959年、東京都生まれ。京都大学卒。米国ロックフェラー大学およびハーバード大学研究員、京都大学助教授などを経て、青山学院大学理工学部教授。生物学者。2007年に発表した「生物と無生物のあいだ」(講談社現代新書)でサントリー学芸賞、中央公論新書大賞を受賞。他の著書に、「狂牛病のタンパク質病原体説に疑問を投げかけた「プリオン説はほんとうか?」(講談社ブルーバックス、講談社出版文化賞)、「ロハスの思考」、「動的平衡」(木楽舎)、「生命と食」(岩波ブックレット)、「できそこないの男たち」(光文社新書)、「世界は分けてもわからない」(講談社現代新書)、週刊文春での連載をまとめたエッセイ集「ルリボシカミキリの青」(文藝春秋)、対談集「エッジエフェクト—界面作用—」(朝日新聞出版)など多数。

#### 織田 顕祐

大谷大学教授



1954年、愛知県生まれ。大谷大学文学部仏教学科卒業。大谷大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。現在、大谷大学文学部教授。擬講。専門は東アジア仏教思想史研究、中国日本華嚴教学研究、漢訳大乘經典研究。真宗大谷派顕明寺衆徒。著書に、「初期華嚴思想史」(韓国、仏教時代社)、「ブツダと親鸞—教えに生きる」(共著、東本願寺出版部)、「浄土論註講義十」(奥羽教区教学研究室)など多数。

#### コーディネーター

#### 木越 康

大谷大学准教授



1963年、アメリカ・カリフォルニア州生まれ。大谷大学文学部真宗学科卒業。大谷大学大学院真宗学科博士後期課程満期退学(真宗学専攻)。私学研修福祉会国内研修員(研修先:東京大学文学部宗教学科)。大谷大学短期大学部助手、大谷大学短期大学部専任講師を歴任。現在、大谷大学准教授。著書(共著)に、「キリシタンが見た真宗」(東本願寺出版部)、「仏教とキリスト教の対話」(法蔵館)、「正像末和讃を読む」(真宗大谷派大阪教区)など多数。

#### 開催趣旨

希望に満ちた新しい世紀であったはずの21世紀は、2001年の「9・11同時多発テロ事件」に始まり、世界が非常に暴力的な様子を呈した時代となっている。リーマンブラザーズの経営破綻を含めた世界的な金融経済の崩壊は、更なる不機嫌・非寛容・傲慢・抑うつという心性を社会に増殖させ、個としての人間はそうした時代の大きなるねりの中で翻弄され、あまりにも無力のように思われる。止まることをせずに飽くなき成長へと駆り立たせる根には何があるのか。現代を生きる人間は、立ち止まることのない方向性の中で、何か出口のない迷路を走り続けているようである。

農業、牧畜、養殖、林業、すべてのものが効率性と均一性を中心にまるで工業製品を生産するように大量に生産され、消費され、廃棄される現代社会。促成栽培、単一栽培、化学肥料、農薬、抗生物質、ホルモン剤、遺伝子組換え、クローン技術という人間の生み出した一連の技術は、使い方によっては、生きものとしてのいのちを機械としての生命に生まれ変わらせるあやうい魔法のように思われる。そして、その魔法を享受する人間が己の「分際」を忘れ去り、非人間化し自己そのものを喪失しつつあるのではないだろうか。そもそも「いのち」とは何か。人間はどのような「いのち」を生きているのか。

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を記念して開催される「第5回親鸞フォーラム」では、「仏教と生命—いのちのゆくえ—」をテーマに、有識者と仏教者のシンポジウムをととして現代人のいのちの受け止めを問い直し、あらためて人間存在とその生きる大地についてみなさまと一緒に考えていきたいと思えます。

#### 定 員

550名

※申込多数の場合は抽選。なお、申込結果は後日ハガキで通知。

#### 申込方法

必要事項(氏名・住所・電話番号)を電話・FAX・E-mail・ハガキにて、下記申込先にお知らせください。(申込締切2011年1月31日必着)

#### 申 込 先

〒177-0032 東京都練馬区谷原 1-3-7  
真宗大谷派(東本願寺)真宗会館「親鸞フォーラム」係  
TEL: 03-5393-0810 FAX: 03-5393-0814  
E-mail: post@prati.info

#### 会場へのアクセス

- 1.「地下鉄日比谷線六本木駅」よりコンコースにて、メトロハットへ。
2. オブジェ広場(66プラザ)を抜けて、アカデミーヒルズのサインに従いお進みください。

